

## ソニー スカイセンサー ICF-5900

私が小学校高学年から中学にかけて、年でいうと1960年代中頃から1970年代初めにかけて世はBCL(海外短波放送受信)ブームで湧いていました。あまり高価なものを買ってもらった覚えは他にありませんが、がんばって親におねだりして買ってもらったのがこのソニー スカイセンサー ICF-5900でした。

最近のラジオはどうなっているのでしょうか？おそらく今は同調ダイヤルを回すと周波数はデジタルで表示されるの

ではないかと思います。あるいは、ダイヤルではなくボタンを押せば自動で選局されるのかもしれませんが。それとも、今でも昔ながらにダイヤルを手で調整して探すのでしょうか。当時は、ダイヤル目盛りは目安にしかありませんから、手探りで電波の強いところを探していくしかありません。国内のAMやFMならそれも可能でしょうが、海外短波放送では難しいです。

このICF-5900はデジタルにはなっていませんでしたが、独自の方法で周波数が直読でき、いわゆる待ち受け受信ができました。

カカカカカッ、クークーッと鳴くラジオオーストラリアの日本語放送冒頭のワライカワセミや地の底から聞こえてくるようなアンデスの声を懐かしむ同世代人は多いのではないのでしょうか？

受信した日時、受信状態などを放送局に送るとペリカード(受信証明書)を返送する放送局が多くありました。僕は集めてませんが、海外のペリカードを何十枚も集めていて、自慢げに見せびらかす友人もいました。そんなことを懐かしく思い出させる短波ラジオです。1975年、今から46年前に発売されたのだそうです。

大倉 宏(科学館学芸員)



ソニー スカイセンサー ICF-5900